

福島イノベーション・コースト構想イノベ地域来訪者受入体制構築事業

「地域の価値向上に向けたブラッシュアップ事業の実施」

地域の価値向上に向けた水素ツーリズムブラッシュアップ事業

事業発表

株式会社孫の手（孫の手トラベル）

代表取締役 山口松之進



発表内容

- 1 水素ツーリズム®モニターツアー
- 2 水素ツーリズム®ファムツアー
- 3 ツアー総括
- 4 水素ナビゲーター養成
- 5 造成ツアープログラム
- 6 次年度事業計画
- 7 まとめ

実施概要

❖実施日

令和7年9月11日(木)~13日(土)〔2泊3日〕 募集人員20名 参加費無料

参加条件

- ①県内及び首都圏在住の大学生・若手社会人(18歳~20代)※高校生不可
- ②水素や脱炭素の取組に関心のある方
- ③イノベ構想に関心があり、浜通り15市町村の活動に興味のある方
- ④ツアー終了後にアンケートの回答をしていただける方
- ⑤ツアー中の様子を写真や動画に撮影することに同意いただける方
- ⑥撮影した写真や動画、回答いただいたアンケートを福島イノベーション・コースト構想推進機構や株式会社孫の手が情報発信する媒体に使用することに同意いただける方

❖目的

イノベ地域における水素関連施設・脱炭素の先進事例・復興まちづくりの現場を若者が体感し、次年度以降の水素ツーリズム造成に向けたコンテンツの検証・改善点の抽出を目的として実施した。

特に下記項目を重視

- ・水素社会の実装に向けた地域の挑戦を理解する機会の創出
- ・若者と地域プレイヤーの対話による関係人口の創出
- ・水素ツーリズム®の核となる体験価値の検証
- ・受入体制(案内・動線・説明・安全管理等)の課題抽出



The poster for the 'Water Tourism Monitor Tour' (水素ツーリズム®モニターツアー) is designed with a blue and white color scheme. At the top, it features the Magonote travel logo and the text '令和7年度 福島イノベーション・コースト構想 イノベ地域実証型体験型事業 「地域の価値向上に向けたブラッシュアップ事業」 採択'. The main title '水素ツーリズム®' is prominently displayed in large, bold characters, with 'モニターツアー' below it. A QR code is located in the top right corner, with the text 'お申し込みはこちら' (Apply here). The dates '2025年 9月11日(木)~13日(土)〔2泊3日〕' are clearly marked. Below the dates, it states '参加費無料' (Free of charge) and provides details about the tour: '福島イノベーション・コースト構想の実現に向け、浜通り地域等15市町村(イノベ地域)に交流・関係人口等の未訪者を外部から呼び込むとともに、機種の新しい手となる人材を継続的に確保していくために、自立的、持続的に外部の活力を呼び込む体制を地域内に構築することが必要である。そのため、イノベ地域で活動する企業・団体等と協働し、イノベ地域外の企業・団体及び将来的に構想の若い呼として期待できる若者等を主要なターゲットとし、イノベ地域に呼び込むためのコンテンツ開発を実施する。' (To realize the Fukushima Innovation Coast Concept, we aim to attract visitors from outside the region and ensure a continuous supply of new talent by independently and sustainably activating external vitality. Therefore, we will collaborate with companies and organizations active in the Inobe region, and target young people who are expected to be future drivers of the concept, to develop content for attracting them to the Inobe region.) The poster also includes a section for 'Point 1 脱炭素社会に向けた地域の取組を肌で感じる' (Feel the regional efforts towards a decarbonized society) with images of a hydrogen truck and a 'SUPER ZERO' sign. Another section, 'Point 2 復興まちづくりに関わる地域プレイヤーとの交流' (Exchange with regional players involved in reconstruction), shows a horse and a person. A third section, 'Point 3 あの時を再認識して考え、未来を見る' (Re-examine that time and look at the future), features a photo of a person and text about the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident and the importance of safety. The bottom right corner has a small note: '※写真はイメージです。' (The photo is for reference only.)

参加者属性と行程

- 参加者数：11名
(大学生7名、若手社会人・事業者4名)
- 参加者居住地：県内3名・県外8名
- 専門性：工学系・環境系・デザイン系・出版・ITなど多様
- 大学生は「復興・まちづくり」への関心が高い
- 事業者は「水素・産業ツーリズム」への関心が高い
- 共通して「地域住民・参加者との対話」を求めて参加

上記11名に水素ナビゲーターとして飛田仰喜氏とツアーアテンダー兼添乗員として弊社代表の山口松之進がツアーバスに同乗して実施。
現地対応係として鈴木が受入を担当。

日程	行程				食事
9/11 (木)	郡山駅/集合・出発 8:45/9:00	コミュタン福島 (環境の回復と創造) 9:30~10:30	昼食:道の駅なみえ (純水素燃料電池システム「H2ReX™」) 11:50~12:50	福島水素エネルギー研究フィールド「FH2R」 (再エネ利用の世界有数の水素製造施設) 13:10~14:20	× 昼夜
	福島イノベーション・コースト構想推進機構 (ロボットテストフィールド) 15:00~17:00		宿泊:いこいの村浪江 (水素供給ネットワーク・水素風呂) 17:30~18:00 ※視察後チェックイン	夕食:ホテル内レストラン 18:30	
9/12 (金)	ホテル出発 5:45	早朝オーガニック農場体験 (天の川農園移住者交流) 6:00~7:00	ホテル到着/出発 7:15/8:45	双葉駅周辺視察 (FUTABA Art District/open roastery Alu.移住者交流) 9:00~9:40	朝 昼夜
	中間貯蔵工事情報センター (中間貯蔵施設視察) 10:00~12:00	昼食:くまSUNテラス (葦駄天IDATEN) 12:10~12:50	大熊町役場	大熊町ゼロカーボン推進課による案内 (大熊町脱炭素の取組と復興) 13:00~15:30	
	ノーマ・ハウスヴィレッジ (馬との触れ合いと地域課題) 16:00~17:30	宿泊:ほっと大熊 18:00頃	夕食:大熊交流ゾーン内レストラン(予定) 18:30		
9/13 (土)	ホテル出発 8:30	東日本大震災・原子力災害伝承館 (ホープツーリズム①) 9:00~10:00	震災遺構 浪江町立請戸小学校 (ホープツーリズム②) 10:10~10:45	浅野燃系双葉事業所 (復興支援と工場見学) 11:00~12:15	朝 昼×
	昼食:キーズカフェ福島双葉店 12:20~13:00	旬のベジカフェバル・BestTable (水素ツーリズム取組と水素焙煎珈琲) 15:00~16:30	郡山駅/到着・解散 17:00頃		



モニターツアーの様子



コミュタン福島



FH2R



ロボットテストフィールド



福島いこいの村なみえ



openroasteryAlu.



中間貯蔵工事情報センター



大熊町脱炭素の取組



ノーマ・ホースヴィレッジ



請戸小学校



浅野燃系双葉事業所



FCVキッチンカー



ツアー振り返り

モニターツアー成果・課題検証

成果

1. 若者層を中心とした関係人口の創出につながった。
 - ・ 震災遺構・中間貯蔵施設・水素関連施設を体系的に視察することで、復興と脱炭素の取組を「自分事」として捉える契機となった。
2. 地域プレイヤーとの交流により、地域理解が深化した。
 - ・ 農業者や移住者等の語りを通じ、地域で挑戦する人々の姿に触れ、地域参画意欲の向上が確認された。
3. 水素社会の先進的取組を体験的に理解できた。
 - ・ FH2RやFCVキッチンカー等の視察により、水素利活用の実装状況を具体的に把握できた。
4. 復興・水素・地域づくりを横断したストーリー性が高く評価された。
 - ・ 行程全体が「過去→現在→未来」をつなぐ構成となり、学習効果が高かった。

課題

1. 参加者同士および地域住民との対話時間が不足していた。
 - ・ 対話について、特に改善の要望は無く、満足度はある程度高かったと推察しますが、アンケートでは“おおむね十分だった”との回答が一定割合いるため、さらなる拡充も必要。
2. 情報量が多く、初学者には負荷が高かった。
 - ・ コミュタン福島と伝承館の内容重複や専門用語の多さから、事前学習の必要性が示唆された。また、滞在時間の短さの指摘もあり、再考の余地が残った。
3. 行程の密度が高く、理解を深める余白が不足した。
 - ・ 移動距離が長く、振り返りの時間が十分に確保できなかった。

2 水素ツーリズム®ファミツアー

実施概要

❖実施日

令和7年11月22日(土)～24日(月・祝)〔2泊3日〕 募集人員15名 参加費無料

参加条件

- ①企業・団体等の研修教育プログラムご担当者様
- ②旅行会社及び企画会社等で研修プログラム企画ご担当者様
- ③学校関係者様
- ④イノベ構想に関心があり、浜通り15市町村の活動に興味のある方
- ⑤ツアー終了後にアンケートの回答をしていただける方
- ⑥ツアー中の様子を写真や動画に撮影することに同意いただける方
- ⑦撮影した写真や動画、回答いただいたアンケートを福島イノベーション・コースト構想推進機構や株式会社孫の手が情報発信する媒体に使用することに同意いただける方

❖目的

福島イノベーション・コースト構想の推進に資するため、水素社会の実現に向けた福島の先進的取組と、震災からの復興・地域再生の現状を体験的に学ぶ機会を提供し、企業・団体等による研修・教育旅行の造成につなげることを目的として実施した。参加者との対話や意見収集を通じ、次年度の販売・受入体制の構築に向けた最終的な検証の場として位置づけた。

特に下記項目を重視

- ・水素・脱炭素に関する先進的取組の理解促進
- ・復興・まちづくりの現状理解と地域プレイヤーとの交流
- ・企業・団体向け研修プログラム造成に向けた最終検証

参加者属性と行程

- 参加者数：12名
- 参加者居住地：東京4名、千葉1名、神奈川1名、
兵庫1名、岩手2名、福島3名
- 勤務先業種：旅行、ホテル、エネルギー、通信、教育、
メディア、社会団体
- 性別：男性6名、女性6名
- 年齢：40代2名、50代3名、60代6名、70代1名

多業種・多地域からの参加で構成され、特に観光・旅行業が中心。40～70代の企画・意思決定層が多く、研修・商品造成の可能性を持つ層が参加。また、水素・脱炭素・復興の学習意欲が高く、地域プレイヤーとの交流を重視している傾向が見受けられた。

日程	行程				食事
11/22 (土)	郡山駅/集合・出発 8:45/9:00	コミュタン福島 (福島環境と震災学習) 9:30～10:30	昼食：韋駄天 (クマSUNテラス内) 12:00～12:50	中間貯蔵施設工事情報センター (中間貯蔵施設内視察) 13:00～15:00	× 昼夜
	双葉駅周辺視察 (震災復興と再生) 15:10～15:40	東日本大震災・原子力災害伝承館 (地震・津波・原子力災害) 15:50～16:50	双葉町産業交流センター (施設見学と振り返り) 17:00～17:50	ホテル到着・・・夕食 18:00頃	
11/23 (日)	ホテル出発 9:20	震災遺構：浪江町立請戸小学校 (震災学習※大平山霊園含む) 9:30～10:20	なみえ水素まつり・・・FH2R/とびchan、水素教室/十日市同時開催中 (FCVキッチンカー浪江町の取組紹介) ※昼食は十日市会場内で各自 10:30～14:00		
	ランドビルドファーム/和坐 (圃場見学と地域活性化) 14:15～15:30	いこいの村なみえ (水素関連施設と宿泊施設見学) 15:45～16:30	道の駅なみえ (施設見学と買物) 16:45～17:30	ホテル到着 18:00頃	朝 × 夜
	夕食：Restaurant MADY (意見交換会) 18:30～20:30	ホテル戻りまたは自由行動			
11/24 (月)	ホテル出発 8:30	ミライトワン・TTK鹿島営業所 (水素燃料電池発電所と南相馬市の取組) 9:00～10:00	相馬市復興視察ガイドツアー (相馬市観光協会) 10:30～12:30	昼食：遊学の宿いさみや (浜焼き定食) 13:00～13:50	朝 昼 ×
	浜の駅松川浦 (視察・買物) 14:00～14:30	郡山駅到着/解散 16:30頃			



ファムツアーの様子



ツアー導入



中間貯蔵工事情報センター



東日本大震災・原子力災害伝承館



双葉町産業交流センター



FH2R



なみえ水素まつり



とびchan.水素教室



ランドビルドファーム/和坐



ミライトワン・TTK鹿島営業所



相馬市復興視察ガイドツアー①



相馬市復興視察ガイドツアー②



遊学の宿いさみや

ファムツアー成果・課題検証

成果

1. 企業・団体向け研修プログラムとしての実装可能性が確認された。

- 参加者の多くが「自社研修に取り入れたい」と回答し、具体的な導入意向も複数得られた。

2. 水素ツーリズムの核となる視察コンテンツが高評価を得た。

- 中間貯蔵施設、FH2R、請戸小学校、相馬市復興視察など、学習価値の高いコンテンツが明確化した。

3. 適正価格帯（3～4万円台）が明確になり、商品化の基礎データが得られた。

- 今後の販売戦略に活用できる具体的な価格感が把握できた。

4. 多業種からの参加により、幅広い視点での評価が得られた。

- 観光・ICT・金融・メディア・公益法人など、多様な業界からのフィードバックが集約された。

課題

1. 2泊3日の行程が参加ハードルとなり、募集人員に満たなかった。

- 企業担当者にとって三連休+長期拘束は調整が難しく、1泊2日版のニーズが顕在化した。

2. 宿泊・食事などの受入環境に改善余地がある。

- 大浴場の混雑、郷土料理の不足など、運営面での改善点が複数指摘された。

3. 個人参加型の場合の交通手段が課題。

- 公共交通・レンタカー・タクシーの不足が、参加判断に影響した可能性がある。

4. 水素社会の“実装段階”の見せ方に工夫が必要。

- 「ビジネスモデルが見えにくい」「一般家庭での利用例を知りたい」などの声があった。

3 ツアー総括

募集人員に満たなかった3つの主要因と改善提案

【構造的要因】

ターゲットが限定的で、母集団が小さい

【スケジュール要因】

日程（2泊3日＋三連休）が参加ハードルを上げた

【内容要因】

テーマの専門性・心理的ハードル



モニターツアー・ファムツアーともに募集人員に満たなかった背景には、対象者が限定的であること、2泊3日の行程による参加ハードル、テーマの専門性や心理的負担など、構造的かつ企画特性に起因する要因が複合的に影響したと考えられる。これらの要因は、次年度の募集方法、行程設計、広報戦略の改善に向けた重要なポイントとなる。

モニターツアー・ファムツアー（要点比較）

項目	モニターツアー	ファムツアー
主対象	若者・学生・次世代層	企業・団体・旅行会社・教育機関
主目的	関係人口の創出・学習効果の検証	商品化・研修プログラム化の最終検証
重視点	体験・交流・自分事化	実務的評価・導入可能性・価格帯
成果	若者の関心醸成、地域理解の深化	研修導入意向、価格帯の明確化
課題	対話不足、情報量過多、行程過密	行程調整、受入環境、交通課題
今後の方向性	学習導線の整備、交流強化	プログラム最適化、受入体制強化



水素利活用の先進事例と復興・地域づくりの現場を一体的に体験できるプログラムとして高い評価を得たと自負しております。一方で、参加者の母集団規模、日程負荷、テーマ特性による心理的ハードルなど、集客に影響した要因も明確となった。これらの成果と課題を踏まえ、次年度はターゲット別のプログラム最適化、事前学習導線の整備、受入体制の強化を進めることで、水素ツーリズムの本格的な事業化と地域への継続的な来訪促進につなげていきます。

4 水素ナビゲーター養成

※事業開始時は「水素ナビゲーター」の呼称を使用していたが、事業進捗過程で「水素の達人ガイド」に呼称変更。

実施目的

- (1) 水素・再エネに関する正しい知識の普及
- (2) 地域の魅力を伝える専門ガイドの育成
- (3) 地域の価値向上とブランド形成

キックオフミーティングの開催

実施日: 2025年11月22日(土)・23日(日)

会場: 第5回なみえ水素まつり会場(浪江町)

内容: ①水素ソーリズム®の取り組み紹介
②水素の達人ガイド®の活動説明
③次年度の養成講座概要
④モデレーター(水素のお兄さん・とびchan.)によるトークセッション

目的: 地域住民・関係者に向けた事業周知と参加者募集

成果: 多数の来場者が関心を示したが1日目1名、2日目3名の参加にとどまった。内当日仮登録者数1名、以降継続的な告知募集により現在は9名の仮登録者数
※2/1現在

キックオフミーティング参加者数に関する要因分析

- (1) イベント特性とターゲット層の不一致
- (2) テーマ内容がイベントの雰囲気と調和しにくかった点
- (3) 事前告知の到達範囲の限定性
- (4) 開催内容の分かりにくさ
- (5) 時間帯および会場動線の影響
- (6) イベント内コンテンツの多様性による情報分散
- (7) 事業初年度における認知度の低さ

“集客の失敗”ではなく、イベント特性・ターゲット属性・認知度・動線・時間帯など複数の構造要因が重なった結果



水素の達人ガイド® 養成プログラム 次年度計画の基本方針

本事業では、福島県が推進する水素関連産業の理解促進と、地域の魅力を発信する専門人材の育成を目的として「水素の達人ガイド®」の養成の準備を進めてきた。次年度は、初年度の成果および課題を踏まえ、養成プログラムの体系化、受講環境の拡充、広報戦略の強化を図り、持続的な人材育成体制の構築を実施していく。

具体的には飛田サイエンスクリエーション様より提案いただいたプログラムをベース（※別添資料①）に体系化した講座を開設し、次年度で「水素の達人ガイド」認定登録者数5名を目指す。

【プログラム方向性】

1. オンデマンド型講座の導入
2. 水素関連施設勉強会（フィールドワーク）の体系化
3. ガイディング技術の習得と評価制度の確立
4. SNS・動画配信による広報強化
5. コンテンツ制作体制の整備

【全体方向性】

1. 学習体系の確立

オンデマンド学習・フィールドワーク・実技試験の三層構造により、体系的なガイド育成を実現する。

2. 持続可能な運営体制の構築

動画アーカイブ化・オンライン化により、長期的に運用可能な仕組みを整える。

3. 地域の水素人材コミュニティの形成

ガイド同士の交流・研修を継続し、地域の水素人材ネットワークを育てる。

4. 地域ブランドの強化

「水素×福島」という独自性を活かし、企業研修・教育旅行・視察受入の強化につなげる。

Magonote travel

水素ツーリズム® 水素の達人ガイド® 大募集!!

水素のトップランナー福島県!!
水素エネルギーを通じた未来の街づくりを
案内役として活躍してみませんか?!

令和7年度 福島イノベーション・コースト構想 イノベ地域来訪者受入れ体制構築事業
「地域の価値向上に向けたブラッシュアップ事業」採択

水素ツーリズム®とは?

株式会社孫の手(孫の手トラベル)が推進する「水素ツーリズム」は、福島県を舞台に、再生可能エネルギーや最先端水素技術を体験できる新しい観光スタイルです。
福島県内では水素関連の様々な実証実験が行われており、その施設を見学することにより世界の変わり目を体感いただけます。

水素の達人ガイド®とは?

水素エネルギーや地域の再生可能エネルギー施設、最先端の技術現場に精通し、専門知識をわかりやすく解説、単なる観光案内ではなく、地域の復興やエネルギーの未来を肌で感じられる体験をサポートします。さらに、参加者の質問や関心に応じてプログラムを柔軟に案内し、学びと感動が交差する旅を演出、地域の魅力を存分に楽しむことができる、心強い旅のパートナーです。

水素の達人ガイド®になるには...

計5回の養成講座(無料)を受講してテストに合格すると、**晴れて水素の達人ガイド®の認定を受けられます。**

第1回
基礎講座①
(座学)

第2回
基礎講座②
(座学)

第3回
フィールド
ワーク①

第4回
フィールド
ワーク②

第5回
ガイディング
講座
(座学+実技)

認定
テスト

※基礎講座2回はリアル受講の他、オンラインまたはオンデマンド動画(予定)での受講が可能です。
※開催会場までの交通費や昼食等の飲食代は自己負担です。

受講条件

- 福島県内在住の20歳以上の方
- 福島県の水素・脱炭素の取組を積極的に学び、情報発信をしていただける方
- 普通自動車第一種運転免許取得者

歓迎要件

- ★各種ガイド経験者(ホープツーリズムFP研修受講者尚可)
- ★多言語対応可能な方
- ★旅行、観光業界経験者

水素の達人ガイド®認定後は...

契 約

水素関連
ツアーのガイド
内容に応じて報酬を
お支払いいたします

自己研鑽と
定期的な研修の
参加

張り切って
ご案内
しましょう!

まずは養成講座参加仮登録を!! 講座開設日程等が決まりましたらご連絡いたします

(※) ブラッシュアップ事業とは、福島イノベーション・コースト構想の実現に向け、浜通り地域等15市町村(イノベ地域)に企業・団体や若者等を自立的・持続的に呼び込むために、イノベ地域で活動する企業・団体等と協働して、コンテンツを開発することを目的として実施する事業です。

13

5. 造成ツアープログラム

水素エネルギーを通して感じる未来の街づくり

「水素ツーリズム®」企業・団体向け視察研修ツアー

- ・1泊4食付48,000円より(お一人様)
- ・15名~申込可・添乗員同行
- ・郡山駅発着貸切バス利用

水素ツーリズム®×ホープツーリズム®

「未来を走る旅」企業・団体向け視察研修ツアー

- ・2泊7食付78,000円より(お一人様)
- ・15名~申込可・添乗員同行
- ・郡山駅発着貸切バス利用

『水素ツーリズム®』モデルツアー

水素ツーリズム®モデルコース(1泊)

- 1** 日
- 各地 —— JR郡山駅集合・出発 —— 福島環境創造センター「コミュニティ福島」 ——
(OP:国立環境研究所福島地域協働研究拠点)
- 昼食 —— ①道の駅なみえ —— FH2R「福島水素エネルギー研究フィールド」 ——
(燃料電池、太陽光、風力、V2など) (再エネ利用の世界有数規模の水素製造施設)
- 棚塩R100産業団地 —— ②ふくしまいこいの村なみえ —— ホテル到着
(純水素燃料電池・水素柱上輸送の実証)
- 2** 日
- ホテル出発 —— ③浪江水素ステーション —— イオン浪江店 —— 日揮ホールディングスまたはロボデックス
(OP:FCVレンタカーMIRA試験) (FCV移動販売車) (グリーンアンモニア統合制御システム実証フィールドまたは水素ドローン)
- 昼食 —— 浪江町の取組と振り返り —— JR郡山駅到着・解散
(水素タウン構想)



①②道の駅なみえ



③④ふくしまいこいの村なみえ



⑤⑥浪江水素ステーション

水素ツーリズム®モデルコース(2泊)

- 1** 日
- 各地 —— JR郡山駅集合・出発 —— 福島環境創造センター「コミュニティ福島」 —— 昼食 ——
(OP:国立環境研究所福島地域協働研究拠点)
- 中間貯蔵工事情報センター —— 東京電力廃炉資料館 —— BAUM HOUSE YONOMORI —— ホテル到着
(中間貯蔵施設視察) (福島第一原子力発電所事故の事実と廃炉事業の現状) (地域再生に向けた取り組み紹介) (OP:震災講話)
- 2** 日
- ホテル出発 —— ④JR双葉駅周辺「FUTABA Art District」 —— ⑤東日本大震災・原子力災害伝承館
(復興と再生ガイドツアー)
- 震災遺構「浪江町立請戸小学校」 —— FH2R「福島水素エネルギー研究フィールド」 ——
(再エネ利用の世界有数規模の水素製造施設)
- 昼食 —— ⑥ふくしまいこいの村なみえ —— ⑦ランド・ビルドファーム/和坐 ——
(純水素燃料電池・水素柱上輸送の実証) (サムライガーリック農業体験と築400年の古民家再生ストーリー)
- ⑧夕食:地域を味わう一日限りのアウトドアレストラン「FoodCamp」 —— ホテル到着
(地域交流会)
- 3** 日
- ホテル出発 —— ⑨浪江水素ステーション —— ロボデックス —— ⑩道の駅なみえ ——
(OP:FCVレンタカーMIRA試験) (水素ドローンの未来※オンライン対話) (燃料電池、太陽光、風力、V2/買物)
- 昼食 —— 浪江町の取組と振り返り —— JR郡山駅到着・解散
(水素タウン構想)

6. 次年度事業計画

- 水素を観光資源として活用する仕組みが未成熟
- 水素を説明できる地域ガイドが不足
- 旅行会社・教育機関との連携が弱く、販路開拓が出来ていない



事業継続



地域の来訪者受入体制を強化

事業目的

- イノベ構想の重点分野である「水素・再エネ」を観光資源として磨き上げ、地域の新たな**価値を創出**する
- 水素関連施設・企業・地域資源をつなぐ**“ストーリー型ツーリズム”を確立**する
- 地域内で水素を語れる人材＝**水素の達人ガイドを育成し、持続的な受入体制を構築**する

月	実施項目
4月～5月	・ガイド養成講座参加者募集 ・養成プログラム完成
5月末頃	・水素の達人ガイド養成講座説明会開催 ・個人向け周遊プラン企画造成
6月～9月	・水素の達人ガイド養成講座実施（座学・現地研修・実践）→認定 ・企業・各種団体、教育機関、旅行会社等セールス活動
10月	ファミツアー（企業・団体・旅行会社・教育機関等向け） ◇商品化に向けた意見収集、ガイド候補者の実践デビュー
11月	モニターツアー（一般向け）※1泊2日 ◇ツアー品質の検証、ガイドの実践機会 水素×地域文化・交流
12月	モニターツアー（一般向け）※2泊3日 ◇ツアー品質の検証、ガイドの実践機会 水素×ホープ（食・歴史・復興）を組み合わせたツアー

指標	目標数値
ガイド養成講座応募者	20～30名
ガイド養成講座受講者	15名～20名
ガイド認定者数	5名～10名
ファミツアー参加団体	5～10団体
モニターツアー参加者	15名～20名
ツアー全体満足度	80%以上
商品化に向けた連携	2～3団体
個人向け周遊型商品販売実績	2商品20名以上
企業・団体向け商品販売実績	2件50名以上

いま

やれる予感！

次年度

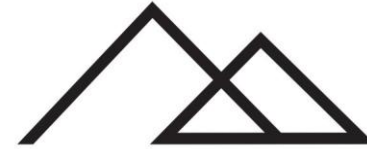
水素の達人ガイド認定者5名！
最終プログラム確立！
地域連携組織立ち上げと販路開拓！

2027年

ジャパン・ツーリズム・アワード応募

ありがとうございます

株式会社孫の手（孫の手トラベル）



Magonote travel

